雑学書庫 知識の記録

大地が陥没してできた巨大な鍋、カルデラ（Caldera）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10093/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

白頭山（ペクトゥサン）の山頂にある天池（チョンジ）の写真を見ると、高い山の上にどうしてあれほど広く丸い湖ができたのか不思議に思えてきます。火山が噴火した跡だと聞くと、火口に水がたまったように思えますが、実は天池の土台となった地形は、普通の火口とはでき方が違います。地面から何かが吹き飛んだ跡ではなく、地面そのものが下へ陥没した場所だからです。このような地形を「カルデラ（Caldera）」と呼びます。 カルデラとは、簡単に言えば「火山が地下のマグマを一度に大量に噴き出したあと、空になったマグマだまりの上の地面が崩れ落ちてできた、大きく丸い盆地」のことです。直径は数キロメートルから数十キロメートルに及ぶこともあり、その中に水がたまると、カルデラ湖と呼ばれる美しい湖になります。 本記事では、カルデラとは何か、火口とどう違うのかから、カルデラができる過程、世界の代表的なカルデラ、そしてカルデラが私たちにもたらす恵みと危険まで、順に見ていきます。 大地が陥没してできた巨大な鍋、カルデラ カルデラは火口とどう違うのか カルデラと火口はどちらも火山の上のくぼんだ地形ですが、できる仕組みと大きさが異なります。 （1）名前に込められた意味カルデラは「鍋」や「大釜」を意味するスペイン語に由来する言葉で、ラテン語の「カルダリア（caldaria）」と語源を同じくします。ドイツの地質学者レオポルト・フォン・